

～第5回こども園フォーラム 書籍・DVD 紹介～

雑誌「幼児の教育」連載

レポート こども園をつくる—文京区立お茶の水女子大学こども園の記録— Vol.1～Vol.11

フレーベル館 2016/4/1～2019/1/1

お茶の水女子大学「幼児の教育」編集委員会が作成している雑誌「幼児の教育」に計11回、以下の内容についてレポートを掲載した。こども園を構成している様々な要素について園長、施設長、保育士、栄養士などが執筆した。その時々の様子が刻まれている。これらの論文については、「幼お茶の水女子大学図書館 teapot」でweb公開されている。ご興味のある方は、「幼児の教育 こども園をつくる」と検索してみてください。

- 第115巻第3号 こども園をつくる Vol.1 設立までの経緯、開園までの取り組み 宮里暁美
* 設立の経緯や準備の様子、木を磨くというワークショップの記録などを紹介。
- 第115巻第4号 こども園をつくる Vol.2 開園から三か月 始まりの日々 宮里暁美
* 子どもたちが登場することで見えてきた可能性。オープンスペースの保育の可能性など。
- 第116巻第1号 こども園をつくる Vol.3 「私たち」意識が醸成されていく 宮里暁美
* 開園から半年、初めての夏まつりなどを経験し、保護者とのつながりもできてきた！
- 第116巻第2号 こども園をつくる Vol.4 「食」が保育の中心にある生活 私市和子・川島雅子・佐藤瑤子
* 施設長、栄養士、大学教員が語る「食」を大切にする園の話。
- 第116巻第3号 こども園をつくる Vol.5 お茶大こども園フォーラムの意義と可能性 宮里暁美
* 2017年3月に実施した第1回お茶大こども園フォーラムの報告。
- 第116巻第4号 こども園をつくる Vol.6 0歳児の心地よい園生活の実現に向けて 粕川菜穂子
* 0歳児クラスの担当保育者が実践について報告。環境の工夫について。
- 第117巻第1号 こども園をつくる Vol.7 20センチがもたらしたもの 内野公恵・大森杏菜
* 設計段階でこども園の2階のテラスを20センチだけ上げたことの成果。
- 第117巻第2号 こども園をつくる Vol.8 保育を支える連携と同僚性～シフト勤務制を生かす工夫から～ 森永路子
* 主任保育士が工夫した保育者間の連携と同僚性を育んだ実践。
- 第117巻第3号 こども園をつくる Vol.9 「夕方の保育」の可能性を探る 宮里暁美・田島大輔
* 教育標準時間外の保育の課題と可能性について提案。
- 第117巻第4号 こども園をつくる Vol.10 インクルーシブな保育～それぞれらしい育ちのために～ 大蔵みどり
* 誰にもうれしい保育とはどのようなものか。実践を通して提案。
- 第118巻第1号 こども園をつくる Vol.11 大学の中に山ができた！～出会いの中で物語が生まれる！～ 宮里暁美
* キャンパスの中の遊び場に山ができた顛末とそのことの意味について考察。

書籍 「0-5歳児 子どもの「やりたい!」が発揮される保育環境—主体的・対話的で深い学びへと誘う」 Gakken保育Books 2018/3/20



幼児期の教育は環境による教育です。お茶の水女子大学こども園の実践の中で大切にしていることを分かりやすく提案したい、その願いから作成した。

子どもの「やりたい!」が発揮される保育環境、というキーワードは、本を作っていく中で出てきた。子どもの心が動き何かが始まる。保育者もまた心を動かし、子どもの動きに呼応するようにして遊びや生活を作り上げていく。そのような生活を紹介したい、その願いから生まれた本である。さらに、素晴らしい実践をしている10園を紹介させていただいた。保育環境の可能性がぐんぐん広がっていくことが感じられる本になった。

目次

- 1 0歳児から5歳児までの「育ち」を支える環境—文京区立お茶の水女子大学こども園の実践
0歳児の環境；1歳児の環境；2歳児の環境；3歳児の環境；4歳児の環境；5歳児の環境 他
- 2 実践したい!園が取り組む環境アイデア
細やかな心配りで心地よい暮らし：バオバブちいさな家保育園

書籍 思いをつなぐ保育の環境構成 0・1歳児クラス編 触れて感じて人とかかわる
思いをつなぐ保育の環境構成 2・3歳児クラス編 遊んで感じて自分らしく
思いをつなぐ保育の環境構成 4・5歳児クラス編 遊びを広げて学びに変える
中央法規出版 2020/2/22



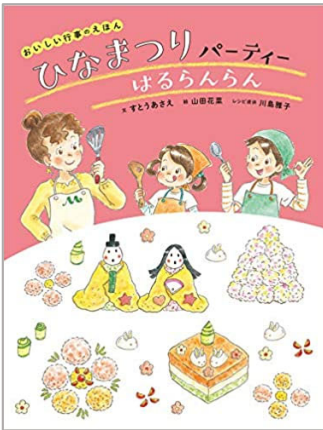
アトリエでのアート・変化し続ける園庭：関東学院六浦こども園

本園の実践をもとに本をつくりたいという編集者と話し合いを重ね、本の構想を練った。

基本のコンセプト「環境に子どもをあてはめず、子どもの動きや思いを形にするために環境を整える」を基に、職員全員で分担して執筆した。

子どもの動きや思いを表現するためには、どのように環境を整えればよいのだろうか?という問いを抱えながら、「従来の環境に子どもをあてはめる発想ではなく、子どもに環境をあてはめるためのヒント」を、豊富な事例・写真をもとに提案した。

その他の出版物



おいしい行事の絵本 ひなまつりパーティー はるらんらん
文：すとうあさえ 絵：山田花菜 レシピ提供：川島雅子
ほるぷ出版 2020/1

絵本作家すとうあさえさん（お茶の水女子大学卒業）が、こども園を訪問し、川島雅子栄養士と出会ったことから、この絵本の企画が誕生した。

本園の開園当初から勤務している川島栄養士は、食の喜びや美しさを大切にしている。四季折々の行事に因んで、「ひなまつりケーキ」「こいのぼりハンバーグ」

「雪だるまポテト」などを給食時に提供し、子どもたちから喜ばれていた。「おいしい行事の絵本」の中で、川島栄養士は、料理のレシピの提供を担当することとなった。

親子で簡単に作れるハレの日のお料理の絵本として、多くの親子の喜びにつながれば、と願っている。

既刊は、第1弾「ひなまつりパーティーはるらんらん」（2020/1/23）、第2弾は「おつきみパーティーまんまるまんまる」（2020/8/20）。「子どもの日」「七夕」「節分」について制作していく予定。



美都文化ポケット 第27号 美育NAVI訪問レポート②⑤（2020）
こどものそばにある「杉浦さん」という空間 文京区立お茶の水女子大学
こども園 ナビゲーター：馬場千晶

「なんでも作るひと」として子どもたちから絶大な人気を集めている本園
用務員の杉浦さんが、全8ページにわたって特集されている。

つくったものの紹介とそのものをめぐる物語が紹介されている。

「すてきな保育をする園には、何かやわらかくやってくれる人がいる」「この子どもたちは、杉浦さんの作ったものにつつまれて暮らすことで、どれほどの栄養をもらうんだろう」と。



夕方保育についての探究 文京区立お茶の水女子大学こども園の実践

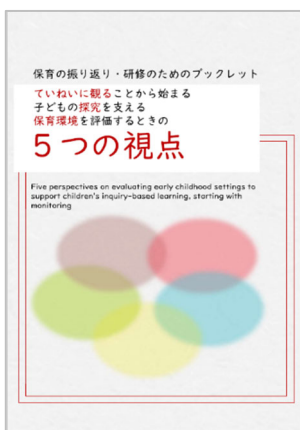
お茶大こども園ラボ（2021） 科研基盤研究（C）
[認定こども園教育・保育カリキュラムの開発：地域・社会に開かれた教育課程の視点から] 宮里暁美・刑部育子・内海緒香・山崎寛恵

教育時間のあとの保育。家庭的な雰囲気できつろいで過ごすとはどういうこと？という問いを抱き、研究した内容を絵本のような形でまとめた。空気の香のようなものを感じ取ってもらえたらと思う。（A4変形判）（非売品）



小さなこども園の大きな挑戦 一子どもたちの「やりたい」が発揮される生活— 創立5周年記念 実践報告書 文京区お茶の水女子大学こども園
2016年4月1日に開設された文京区立お茶の水女子大学こども園は2021年4月に5年目を迎える。創立5周年記念として、創立以来、保育者、研究者、学生がこども園で様々に取り組んできた教育保育と研究の成果を実践報告書にとりまとめた。開設と運営に携わってきた方々の寄稿や日々の保育に活かすことができるトピックが収録されている。(A4判)

(非売品)



ていねいに観ることから始まる子どもの探求を支える保育環境を評価するときの「5つの視点」(2021) 内海緒香・川邊尚子・宮里暁美

『思いをつなぐ保育の環境構成(中央法規出版)』の「保育の環境と評価」と「ここが迷う保育環境のQ&A」の部分、日々の保育や研修に使いやすいようコンパクトにまとめ、内容を増補した。お茶大こども園の環境評価のエッセンスが書かれている。(A5判)

(非売品)

DVD



「創る・織りなす保育 都市部での保育のこころみ」岩波映像 2018年制作
企画・監修・解説 無藤隆(白梅学園大学大学院特任教授) 増田まゆみ(元・東京家政大学教授 湘南ケアアンドエデュケーション研究所所長)

限られたスペースの中でも工夫することにより豊かな保育環境を創り出すことができる例として本園が取り上げられた。「この園の園舎、園庭は決して広くはありません。限られたスペースの中での工夫、小さな園庭での遊び、そして近隣の公園などへ散歩に行く姿は典型的な都市部のこども園や保育園の姿です」と紹介されている。現在増えてきている都市部の小規模園のモデルとして注目され、養成大学での授業や研修会の資料として広く活用されている。



お茶大こども園ラボ 経済産業省「未来の教室」実証事業の記録 制作：岩波映像株式会社 2020年製作 57分 企画:お茶の水女子大学

2018年10月~2019年3月にかけて、経済産業省の「未来の教室」実証事業の一つとして、お茶の水女子大学では「お茶大こども園ラボ」を企画し、先端教育の手法の一つとして海外でも注目されているSTEM/STEAM教育を就学前教育領域に活用する研究に取り組んだ。既にSTEM教育に多くの知見をもつポストン・チルドレンズ・ミュージアムとの研究交流を行い、風のデバイス「フライング・ラボ flying lab」と光のデバイス「ライト・テーブル light table」の2つのプログラムを乳幼児対象に実施した。お茶の水女子大学こども園を実証の場所として行ったSTEAM教育への取り組みの記録を収録している。